

平成30年12月17日(月) No.432

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年175名 2年179名 3年156名

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/sato-j/>

「スマホ社会」の今こそ

校長 高田 晶子

毎朝の空気の冷たさや、校務員さんが落ち葉の掃き掃除をしてくれる姿を見て、ようやく冬の到来を感じるようになりました。本校自慢の「あいさつ」は朝から寒さを感じさせないくらい温かい気持ちで、生活委員会や教職員、PTAの皆さんが続けてくれています。今年も温もりのある里中学校の年末を迎えられることに、大変嬉しく思います。



校長室前の掲示に「いつも仲間とともに」ということばを掲げています。里中学校に関わる全ての人たちを仲間ととらえ、里中学校という場で仲間との縁を大事にしていこうと思うものです。人が関わることで縁というものはつながっていくのだと思っています。

ところが、最近では「ネット縁」という言葉を聞くようになりました。皆さんはご存知ですか？この言葉を耳にしたとき、「え？」と思い、温もりとか人の息づかいを感じませんでした。皆さんはいかがでしょう。

今、人間の生活全ての場所で、誰からも制約を受けることなく、自由に情報を受け取り、自由に世界中に発信することが可能になり、高齢者から乳幼児まであらゆる世代がスマホを手日々生活する「スマホ社会」が出現しました。世界の中の膨大な人たちとつながる「ネット縁」。その向こうにはどんなつながりがあるのでしょうか。

里中学校では今年度の非行防止教室で、LINE株式会社から講師をお招きし、SNSの使い方について学習をしました。生徒たちはコミュニケーションの大切さなど、多くの気づきのある学習をすることができました。

しかし、使い方だけの問題ではなく、体への影響もしっかり理解しておかなければいけないのではないかと思います。「足が育たない(子どもの遊びの変化)」「目が危機的状況(強度近視の増)」「身体操作能力のレベル低下」「五感が育たない」などの影響も報告され、スマホの使用時間に伴い様々な影響について「学力の低下」の研究もされています。

NPO子どもとメディア代表理事の清川輝基氏・小児科医の内海裕美氏ら共著の「スマホ社会の落とし穴」には、次のように述べられています。

ネット社会に向き合い適切に対応するには一定レベルの判断力、想像力、そして社会的、経済的、法的な責任能力が必要です。最近、選挙権は18歳から付与されることになりましたが、社会的な責任能力は高校生以下、とりわけ中学生以下の子どもは、まだ未熟で成人と同じには扱えないというのが日本人の大人社会の共通認識です。スマホやタブレットを使ってのネット社会へのアクセスも、物理的には大人と同様に可能ですが、その行動の幼さは数多くの危険を招きかねないのです。

私たち大人が「スマホ社会」から子どもを守らなければいけない、その手立てをしっかりと考えていかなければならないと痛切に感じています。

平成30年も大変お世話になりました。良いお年をお迎えください。